

2019年6月22日 新潟日報朝刊 20面掲載  
新潟県支部小千谷市受託事業（第1回目6/20実施）

# 災害時 どう逃げる

## 小千谷で地図使い机上訓練

災害に備えて住民らでつくる自主防災組織のレベルアップを目指し、小千谷市で20日、地図を使って災害発生時の対応策を学ぶ防災研修会が開かれた。市内の組織や町内会の会長ら約50人が参加。新潟・山形地震の直後ということもあり、参加者たちは真剣な表情で取り組んでいた。



地図を使った訓練で災害発生時の対応を学んだ参加者20日、小千谷市上ノ山4の市民学習センター集集館

## 新潟・山形地震直後 住民ら真剣な姿

2004年の中部地震発生から、10月で15年。これまでに市内に95団体ある自主防災組織の、培った災害対応の経験や教訓の継承を図ろうと、市が主催した。

研修会は、同市上ノ山4の市民学習センター集集館で開かれた。研修は地図を使って災害対策を検討、課

### 15年前の教訓も生かし

題を明らかにする「DIG 備えが大切」と指摘。「地域（ディグ）」という手法を用いるリスクがあり、それぞ6強の地震が発生し、ライフラインが停止、家屋の倒壊が相次いでいると想定した。

参加者は地域別に8グループに分かれた。地図上に用いた訓練は初めて。新潟・道路や河川を色で塗り、避難経路を確認。避難所となる公共施設の場所にシールを貼り「小学校はここ。神社はここだ」と声を掛け合

った。崖崩れの危険がある場所にも印を付けた。

中越地震発生時の状況や避難時に困ったことなども振り返った。発電機があればよかった「行政との情報のやりとりが一方通行にならないようにしなければならぬ」と課題を出し合った。

さらに日本防災士会県支部の尾見誠司副支部長が講演。災害は予測できず抑止もできないため日頃からの

木津団地自主防災会の勝又幸博会長（76）は、地図を

用いた訓練は初めて。新潟・

山形地震の直後でもあり、

改めて地域の危険な箇所を

把握できた。今後の災害発

生時の対応に役立てたい

と話した。